

「中・高校生のための薬物乱用防止セミナー」 報告書

日時 : 平成28年8月23日(火) 14時~16時00分

場所 : 山口県下関市秋根南町2丁目4-33

共催 : 下関市、下関市薬物対策協議会

参加者 : 約170名(市内中学生・高校生、学校関係者、薬物乱用防止推進員、
下関市薬物対策協議会関係者、保護司、市民) 詳細別紙



1. 開会あいさつ

下関市薬物対策協議会会長 河井 臣吾

近年の話題として、有名人による薬物事件が多く40、50代の薬物汚染が騒がれる中、小中高校生による大麻や覚せい剤事件もあり低年齢化も懸念。正しい知識を若者に伝えることが大事であると挨拶。

2 薬物問題に関する発表

「ダメ。ゼッタイ」体験セミナー参加報告

下関市立豊田中学校

3年 有田 真也、福嶋 聡真

下関市立下関商業高等学校

3年 白石 瑞樹、村田 詩歩

2年 藤永 健汰



○豊田中学校

体験学習レポートと題して大判用紙3枚に写真等を貼付して作成しており、セミナー当日に用紙持参。開始まで受付ロビーにて展示し、発表時はステージに上げて生徒一人が指し示しながらもう一人が発表。ステージ上の用紙は良く見えなかったが、事前に大判用紙の画像データを送付してもらい配付資料としていたので内容は良くわかった。

Q:冒頭で、とてもワクワクしたとあったが、一番ワクワクしたことは何でしたか？
(旧門司税関にて)

A:海外から違法に持ち込まれた実物がそのまま展示されていたことに驚いた。

○下関商業高等学校

体験セミナーに参加した3名が発表。体験セミナーの話の後、各薬物の特徴等について説明し、薬物使用が原因と思われる犯罪事例や違法な密輸の事例について紹介。また、「運び屋」の危険性についても説明。薬物乱用について「関係ない」と思わないこと、甘い誘いを断る意思を持つことが大事であり、自分の知識を広めることから始めませんかと生徒への呼びかけで発表は終了した。

Q:生徒会を中心に薬物乱用防止についての対策をしていきたいとあったが、現在、何か学校で行っていることはありますか？

A:現時点では具体的な対策は行っていないが、これから文化祭等を利用して学校内外に周知徹底ができると思う。

3 山口県内における薬物情勢について



山口県警察本部刑事部組織犯罪対策課
課長補佐（薬物銃器捜査担当）
藤田 尚宏

配付資料の薬物犯罪の現状（2016版）を見ながら、薬物の密輸、密売にはたいてい暴力団（ヤクザ）が関わっていること、再犯者は下関署宇部署等で逮捕率が高いこと、県内の薬物蔓延について説明。また実際の取締り時の話や持参された防弾盾についても紹介。最後に、薬物を使用し逮捕・服役となった場合に、悪いことをしたのだから自分は仕方が

ないが、残された家族にどんなにダメージが大きいのか、そこを真剣に考えてほしいと講演された。パワーポイント等の使用はなかったが、生々しい実際の取り締まりの話等が盛り込まれておりとても興味深い講演だった。

Q：中高校生が薬物を手にするきっかけとして何が一番多いですか？

A：一言では難しい。あまり中高生が薬物と密接に関わることはないが、やはり最初は「好奇心」。それと不良っぽい人、ぐれた人、ヤクザ、この人はおかしいなと思う人には近づかないでほしい。スキを見せてはいけない。誰でも弱い部分を持っている。隙間をぬって入ってくる。しっかり自分をもってほしい。

4 基調講演 演題：「あなたとあなたの友だちを薬物乱用から守るために」

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

精神保健研究所薬物依存研究部 心理社会研究室長 嶋根 卓也



スライドにそって説明しつつ、ステージから降り、生徒へ質問を投げかけて考える時間（まわりと話し合う時間）を設け、答えさせる方法を取っていた。配付資料も意図的に空白を作っており、答えが出たら各自が記入する方法になっていたため、みんな真剣に考え記録する体勢だった。危険ドラッグ等の薬物乱用だけではなく、処方薬や一般薬の乱用についての説明もあり、薬物依存について考えさせられた。薬物乱用の危険性を正しく知ること、タバコ・お酒を始めないこと、友だちのゲートキーパーになること、そして信頼できる大人、相談できる大人を見つけて友達と一緒に相談することが大切であると今日のテーマを説明された。とてもわかりやすく、生徒たちの興味を引く講話であり、アンケートでも好評だった。

Q：もしとても怖い友達に薬物を強制されそうになったとき、ベストな断り方は？
 A：とりあえず、逃げることに。断り方を考えるより、その場から身を遠ざけること。
 おそらく「ああ言えばこう言う」問答になるので。逃げるのが勝利、負けではない。
 そして信頼できる大人に相談してください。

5 閉会のあいさつ

下関市立下関保健所 保健部長 福本 怜

発表した中高校生と各講師への謝礼と薬防推進員等に対し今後も引き続き薬物乱用防止活動の推進をお願い。また、中高校生のみながゲートキーパーとなり重要な役目を自分たち自身がしていくことを話し最後の挨拶とした。



★会場写真

